



2025(令和7)年8月例会のご案内

(第45回 夏 季 公 開 講 演 会)



主催：平群史蹟を守る会 後援：平群町教育委員会

日 時 令和7年8月2日(土曜日)

受 付： 午 後1：00～

講 演： 〃 1：30～3：30 (予定)

会 場： 平群町総合文化センター1階 くまがしホール

【入場無料】入場は先着順で定員370名に達し次第締切り

(午前8時に平群町に警報発令の場合は、翌3日(日)同時刻に延期)

講 演

演 題 4世紀の倭王権
— 佐紀古墳群と富雄丸山古墳 —

講 師 奈良県教育委員会 教育部文化財課
埋蔵文化財調査センター 学芸員
村 瀬 陸 先生

【講演要旨】

3世紀にはじまり、5世紀に最大化する大型前方後円墳。しかし、どのような発展過程を4世紀に経たのかに着目した研究は意外にも少なく、本講演では、村瀬先生が佐紀古墳群や富雄丸山古墳の調査を担当した経験や自身の調査研究をもとに、4世紀の倭王権がどのように時代を動かそうとしていたのかに注目し、この視点が、めまぐるしい変化のある現代とも深く関わりのあることを話されます。

【お 願 い】

☆入場は先着順で定員370名に達し次第締め切られます。史蹟を守る会々員の方は早目入場にご協力をお願いします。

☆駐車場は混雑が予想されます。出来るだけ電車で来場をお願いします。

☆講演会当日【8月2日（土）】は、午前10時より役員で会場準備をします。また、入場受付作業の混雑が予想されます。

つきましてはご都合のつく幹事及び会員の皆様のお手伝いをよろしくお願い致します。

企画部からの報告

夏季公開講演会資料等準備作業が行われました

8月2日の夏季公開講演会に向け、6月24日(火)にポスター・チラシ・掲示依頼書・各種案内状等の印刷を行い、会員・県内官公庁・記者クラブ・民間団体・町内各所 施設等への配布準備作業が行なわれました。



昨年より熱中症の危険を回避するために、7月例会は資料館等の見学を行うことになり、今回は7月13日(日)に飛鳥資料館を訪問しました。天気予報は前々日までの「曇り」に反して朝から晴天、酷暑のためか参加者は15名でした。

資料館へは橿原神宮前駅から奈良交通バスに乗り換え約15分ですが、この時期は便が1時間に1便ということもあり、目的のバスに乗車まで少々時間待ちがありました。



バス停前で本日の行程説明

飛鳥史料館

同館は奈良文化財研究所の調査研究の成果を展示する目的で、1975(昭和50)年に開設されました。今年で50周年になります。入口から建物に至るまでの広い庭園には、飛鳥に点在する石造物が実物大で再現されています。

館に入って正面に、噴水として使用された石人像(実物)が展示されているほか、古代飛鳥の模型があり、当時の姿がしのばれました。



史料館入口に夏季講演会ポスターが

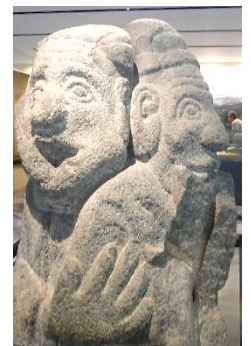
館内の展示室は2室に分かれており、第1展示室では、山田寺や飛鳥寺などの寺院や宮殿、古墳の出土品が展示されていたり、キトラ古墳や高松塚古墳の壁画(四方と天井画)が復元されています。中でもキトラ古墳は天井画の星座の説明が、時間を決めて行われていて、古代人の天文学的知識の高さに驚きました。

第2展示場では、倒れたままの状態で見つかった山田寺の東回廊が保存処理して展示されており、飛鳥時代の建築技術の精巧さがうかがえました。

地下には特別展示室や高松塚古墳の石室模型があります。館内は自由見学でしたので参加者それぞれが興味のある展示に見入っていました。

今回初めてオプションルツアーを計画したため、移動のバス時刻の関係で、館内の見学は所要時間が40分弱と短くなりました。(再訪問される方へ 月曜日・年末年始は休館日。70歳以上は無料です)。

予定の時刻になり一次解散し、13名がオプションの川原寺跡に向かいました。



川原寺跡(現：弘福寺)

天智天皇の建立と言われる川原寺は、飛鳥寺、薬師寺、大官大寺と並ぶ飛鳥四大寺の一つで、623年に日本で初めて一切経の写経が行われたということ而得名です。現在、建物の基壇や礎石が復元されていますが、弘福寺山門内に川原寺の中金堂の柱石が残っており、瑪瑙の礎石であったことがわかっています。

弘福寺本堂には本尊十一面観音像や持国天、多聞天(弘法大師作)が安置されています。残りの広目天、増長天は焼失したということでした。この他、十二神将も安置されていて、日本では3例目になるということです。本堂拝観後、古代飛鳥御膳をいただきました。

御膳は、赤米のごはんに、しめじの味噌汁、ブリの塩焼き、ごま豆腐、てんぷら、蘇(古代のチーズ)を復元したもの、というメニューでした。お料理もそれぞれ堪能しましたが、部屋から北側に目をやれば、稲が一面に青く広がり、遠方には天香具山が望まれ千数百年前の古代人もこの風景を眺めたのかと、しばしタイムスリップした気分でした。

(繁田記)



みんなのひろば

今年4月に監査役になりました令和3年入会の浅野旨史(よしふみ)です。
私は別の名前正慧(しょうえ)を持っています。

豊臣秀吉が花見をした京都の醍醐寺で僧籍を持つ山伏です。今は山には登っていないのですが。

一昨年、平群町観光ボランティアガイドにも入り平群町の史跡を案内しています。平群町には文化財は多く、その中に県指定の深沙大将(じんじゃたいしょう)という神様がいらっしゃいます。修験道や葛城修験に関係があるとかが論文などで紹介されています。

修験道の奥義で柱源神法(はしらもとじんぼう)と恵印七壇法(えいしちだんぼう)という2つの特別な修行があります。

七壇法とは七つの神様や仏様を順番に供養する修行で最終的に仏の境地に至る行です。その一番目は辨財天、二番目が深沙大将になります。その修行の教えに深沙大将は仏法を護る守護神で俱生神(くしょうじん)「直ぐ解るので調べてみて下さい」ともいいます。罪障明鑑の主神。つまりこの神様を供養する事によって自分の罪汚れを清める行になります。因みに辨財天の行は罪や過ちを懺悔する行になります。

どうして深沙大将はこのような扱いを受ける神様になったのか。

事の起こりは西遊記で有名な三蔵法師が天竺へ釈迦の教えを求める旅で、ある神様に助けられたという彼の言葉が残されていて、この神様が深沙大将であると言われます。また三蔵法師の教えが興福寺や薬師寺の法相宗になりますが、三蔵法師とある日本人との関りが三蔵法師の教えを日本に伝える事になります。また平安末期、後白河法皇が編纂した梁塵秘抄(りょうじんひしょう)に深沙大将を称える歌があり当時日本ではどのように深沙大将を認識されていたかがわかるものになります。

その歌は 「釈迦の御法は天竺に 玄奘三蔵弘むとも

深沙大王渡さずば この世に仏法なからまし」

一昨年、薬師寺の執事長の大谷師がお寺の行事で深沙大将を造立するにあたり、信者を連れて平群の深沙大将を参拝に来られたので、この話をしたのですが大変喜ばれ、薬師寺内にも修験道の研鑽を積むものが居りますので遊びに来るようお誘いを受けました。

修験は密教が日本に伝わる遥か以前から起こっていたもので南都六宗の三論宗、法相宗の教えを修行の糧にしている極めて関りが深いものでもあります。

少し長くなりました。このように深沙大将には深い謂れがあります。機会がありましたらご参拝下さい。



都築神社深沙大将
(平群町ホームページより)

吉新 浅野